#### 第20回「文芸思潮」 現代詩賞

## 文芸思潮 詩

252

実したコンテストとなりました。心から御礼申し上げます。 きまして、まことにありがとうございました。おかげさま で二三○名の方から六四四篇の作品をご応募いただき、充 五月末に集まった応募作の中から、まず選考委員会予選 第二○回「文芸思潮」現代詩賞に多数の御応募をいただ

最終選考が行なわれました。厳正な審査の結果、 三十日、渡辺みえこ、五十嵐勉の二名の選考委員により、 担当によって第一次予選、第二次予選、第三次予選の選考 が行なわれました。それらを通過した作品を対象に、十月 り決定しましたので、ここに発表させていただきます。 今号には優秀賞を掲載させていただきますが、奨励賞作 以下の通

検討中です。佳作以下の賞状・賞品などは明年二月上旬まで いただく予定です。 授賞式につきましては、申し訳ございませんが、ただいま

に直接受賞者に発送させていただきます。

品も、

次号以降できるだけ「文芸思潮」誌上に掲載させて

領で明年また募集いたします。どうぞ奮って御応募くださ 第二十一回「文芸思潮」現代詩賞は、これまでと同じ要 (「文芸思潮」現代詩賞選考委員会/文芸思潮)

### 第 20 回 「文芸思潮」 現代詩賞

### 最優秀賞

#### 優秀賞

# 「熾きる」「液体」「凍土」

ランジスタ」 **フンジスタ」 柏原 宥**(埼玉県川越市)「ラストセイリング」「サイバー空間」「細胞とト

〜」「歪 Und 「弔い浸透圧、 Under OQX」「やつがれ灰兎」 廻せ黒桟ト 愛犬ロビンに捧

「鑑真」 岩尾宏紀 (大分県速見郡) 清水一美 (東京都立川市)

立のなかで」 **业のなかで」 森下万尋**(千葉県市川市) 「胸は雪の嶺を越えようと」「まだらな青い時」「木

「モノクローム」「Bullet」

インバ (奈良県奈良市)

でうむ」「ひかるせと」 「ここにはいないひと」「沈んでいく舟を送るにも似た儀式 橘いづみ (島根県出雲市)

幸地チカソ(沖縄県中頭郡)「寄留民」「座喜味城」「拝所」 「或るレポオト」「嫉妬」「素足の季節\_ 光枝初郎(岡山県倉敷市)

奨励賞

「熱の憶え」「parity」「濾過」中村郁恵(北海道札幌市)

「Made of the World」「A Piece Of」「言えない」 bluemoon (島根県松江市)

「月下火葬」「流竄された病蠶」 「春」「ひとりぼっち」「斬首」後藤 順(岐阜県岐阜市) 曲田尚生 (静岡県富士市)

「面影」「夕立の向こうに」「命の奇跡」

田咲恵子 (神奈川県川崎市)

「へびのうろこのマーメイド」「猿夢未遂」「代償リボ払い」 械冬弱虫 (東京都三鷹市)

「鱗」「貝」「あたたかく流れる」 渡辺八畳

(東京都西東京市)

「森の中を彷徨う」「天使の仲間」「旅の途次」 遠藤芳子 (東京都狛江市)

「それからの誕生」「目覚め」「世界公園」

「海辺の遠景」「舟路」「壁」

関根怜 (茨城県ひたちなか市)

德丸魁人 (愛知県安城市)

「灌水に紡ぐ」「再開」「攪拌する」

**久利潤保**(福岡県久留米市

「せんちめらたるじい」「廃団地」「あか」

「電脳浄瑠璃アルミホイル」「川柳泥棒」「ナイトクリーニング」 わたなべ(新潟県新潟市)

赤橋梗生(東京都日野市)

※次ページへ続く

253

## 詩を書くということ

## 渡辺みえこ

がある。特殊な言葉は注を付ける……など。も発表するのであるから読者に伝えることに留意する必要も発表するのであるから読者に伝えることに留意する必要がしさがどこかにあろうが、拒否や疑念がテーマであってかしさ

今回もそんな伝達に向かう言葉の経験が集まってきてい

#### 奨励賞

# 「焚書」「孕んだ腹裂いたらあ鉈」「冥土のスープ

「空」「魚の目」「呼吸」坂田康雄(静岡県浜松市)

れぞるのを感じた。

意味を伝達する必要のある時は仮名でなく象形文字の漢感(リアリティ)が出る。感(リアリティ)が出る。なりがちなので直接に現実と触れ合ったものが創作の現実させている。それを詩のテーマにするのは、二次的創作に

商業的に創作されたものは、読者に高揚感を与えて完結

字を使うのが良い。
意味を伝達する必要のある時は仮名でなく象形文字の漢

が生きている。「母」、「子ども」、「私」の闇の部分が、三かあさん」や「私の火」であることの比喩が的確で詩言語像秀賞の三刀月ユキ氏、「熾きる」は、熾きていた「お

の系譜が感じられる。 きと流れを作っていて、多様な口頭(オーラル)物語芸能 の系譜が感じられる。

る部分があってもよい。

況を具体的なものを活写して、語りの流れを一瞬食い止めは、説明的でもあるが、意味は掴みにくい。このような状「熾きる」の十連「続きは「居なくなった」のではない」

「液体」の五連の「道端でぶつかった男に浴びせられる罵「液体」の五連の「道端でぶつかった男に浴びせられる罵り知れない痕跡があるだろうし、「何度でも/生みます/としても軽いのではないか。「戦時を生きた祖母」には計り知れない痕跡があるだろうし、「何度でも/生みます/り知れない痕跡があるだろうし、「何度でも/生みます/方がをして けっしてなくならない小さな海として」と宣言する著者にもあるであろう「痕跡」が表現されているとさらに良い。

> 循環し、 根を張るように/真紅の花弁が「咲き乱れている」と的確 悲しみは読者に伝えられているので、それを同じ詩で答え を握っていたら/ 般的な比喩である。詩は自己の中に起こった特別の感じ方 はないほうがよい。 をだしてしまうとその重要さが消されてしまう。この二行 ていたら」という重要な疑問が提出されていて、その悔恨 よい。また八連目の「/意味のない問答/答えのないイフ の表現を探すことなので、このような表現は避けたほうが が必要だ。「星のように瞬く街灯」「銀色の雪」などは、 に整っている。しかし五連目での比喩の類型的表現は注意 展開され、最終連では、一連の「彼岸花」が総合的な形で な比喩を使った内面表現に始まり、二連では、「冥府」と たしの心臓には/彼岸花が宿っている/厳かに脈々と を持たせる。「Bullet」の一連は以下のように始まる。「わ その詩全体を象徴し、読者にその詩を読ませる意欲と期待 いう具体的な場が設定され、やがて内面を表現し、記憶が **/」は、その前の七連の「**― しめくくられる。まさに古典的交響曲のような形 もし あの日 -もし あの日 あなたの手 あなたに心臓を捧げ

て、空漠としたものが残る。豊富な言語の噴出を少し抑えの壮大な漢語の結合は、激しさは伝わるが、意味は拡散しれている。「生命の慟哭」、「惑星の憐憫」など異なる意味「モノクローム」は、宇宙的な視野で豊富な言語が連打さ

5 て、 森下万壽氏、「胸は雪の嶺を越えようと」静かな視線、多くの詩群ができるのではないだろうか。 大事なイメージを中心にして、それから広げてい つ

かで」は流れるような文体のなかに、「真春」の風、香り 青い時」も整った美しいイメージの詩である。「木立のな などが現実感をもって感じられる。 な傷痕かなど、読者に具体的に感じられるように表現され 移動に安定感があるが、 全体がもう少し強くなるのではないか。「まだらな 三連目の展開で「傷痕」とはどん  $\mathcal{O}$ 

側からの視線も入れるとロビンとの関わりや、 ジュ的に唱え、 対化ができるのではないか。 ンに捧ぐ~」は、 岩尾宏紀氏、「弔い浸透圧、回せ黒桟トー 愛犬ロビンへの哀悼としている。 ポップカルチャーの身近なものをコラー 1 一体化、 〜愛犬ロビ ロビンの

さらに広がりが出るのではないだろうか。 りがある。鑑真の姿、行ない、その静かな輝きが表現され ら著者自身を入れて、鑑真の影響などを現代にも繋げると ており、清水一美詩世界を作っている。もう一歩進めるな 「鑑真」は、 日本の伝統美のさらなる深ま

現されている。 的にはならないだろう。 な光景が、乾いた風とともに一瞬よぎる、 光枝初郎氏、「素足の季節」は、 もう少し著者との関わりが書かれれば衒学 **よぎる、そんな幻影が表南ヨーロッパの神話的** 

> を喚起するよいフレーズだが、どんな「わたしたち」か、 の出産と、一般的な生むを分けたほうがよい。十三行目「わ 関係は、など少し書き込まれていると読者が、さらに深く たしたちふたりして羊水に辿り着く」など詩的なイメージ は、「うむ」には多くの異なった意味がある。行為として **橘いづみ氏、「沈んでいく船を送るにも似た儀式でうむ」**

柏原宥氏、「細胞とト詩の流れに入りやすい。 ロディーでもあろう。 思考だが、 けるのではないか。 全体が詩、 「細胞とトランジスタ」は、「炭素」に対する 寓話になっている。 「サイバー空間」はエッセイでも書 人間の文明のパ

という感性は詩そのものだ。生きている日常の中で詩を感 付く、そこに「北海の刺すような空の青さを見てしまった」 現する文芸形式だが、その詩に耳を傾ける読者にはぎりぎ が欲しい。「拝まれ」る側からの視点で見たのは新鮮だ。 る。詩は日常的な伝達の手段(散文)ではなく沈黙さえ表 てくる。擬音も一般的な音ではなく著者の音感が響いてく り伝えられる情報は必要だ。「座喜味城」も「拝所」も註 奨励賞の坂田康雄氏、「魚の目」は居酒屋で魚の目に気 幸地チカソ氏、「座喜味城」は、南の城の空や空気が伝わっ

知っているのに」は説明的、散文的でないほうが良い。「空」

**雫垂れてきそうな」は坂田氏独特の感性でよい。「本当は** じることは、詩を生きることでもあろう。「空」、「水が一

に良くなるだろう。 加えて、例えば地球との関連などを入れて広げるとさら 「魚の目」も、 詩的着想はよいが短い のでもう二連ぐら

奇跡の一呼吸に/空を一つ/いただいた…」は命と宇宙に 対する讃美である。さらにこのような詩を書いていってほ アニミズム的感性は、詩の魂であろう。最終連の「ああ/ 若葉」や 「呼吸」は、 「この星が自転」することにもつながると感じる 一呼吸に「命の歴史」を感じ、また「木々の

見つめるのは詩の魂の一つだろう。 を描いている。誰も素通りするようなものの性質を大事に 中村郁恵氏は、主婦の日常から物とのきめ細やかな交感

まで思いを馳せてやる、これは命ある生き物を食するもの と思う。「ひとひら」の おをこのように見つめた人(詩人)は、かつていなかった と読者もさらに感情移入しやすい。「濾過」は、 現されている。この用具の「名」が最初のころに出てくる の倫理であろう。 「熱の憶え」は、 家事の用具への感情移入と愛情が深く表 「削りがつお」から「育った海」 削りがつ

人に投げ与えるのだとそこでは信じられている。イヌイッ アザラシには、魂があってその再生のために全身を進んで ヌイットはアザラシを全部たべるのだが、永久凍土の 拡大家族や友と分かち合って深い信頼の供食を

> ていってほしい 今後も生き物とともに生き合い、 日常的実践のダイナミクス』大阪大学出版会 二〇一三年)。 れるのだという(大村敬一『カナダ・イヌイトの民族誌― が結ばれており、 行う。そうしてイヌイットの魂の再生を助ける互酬的関係 「母の聲」も母から娘への台所の優しい系譜が感じられる。 受け手としての人間も野生の魂に生かさ 語り合う共生の詩を書

野葛間氏、「焚書」は、 わたなべ みえこ 日本女子大学、文教大学など 主張と形式が合致してい る。

が必要だ。三連、 「parity」は、

詩の中に数字を入れて、読ませるには工夫

四連は数字が比喩的に詩になっている。

2009 第59回 H 氏賞詩集賞選考委員。 2015 第 47 回横浜詩人会賞選考委員長。 詩集 『耳』詩学社 1972。『喉』思潮社 1982。 『声のない部屋』思潮社 2001。『水の 家系」南風プレス 2002。

渡辺みえこ

詩歌句大賞受賞)。 文芸評論『女のいない死の楽園―供犠 の身体三島由紀夫』パンドラカンパニ 一刊 現代書館発売 1997 (第一回女性 文化賞受賞) など多数。

元大学講師。詩誌「いのちの籠」同人。 日本現代詩人会、日本詩人クラブ会員 『空の水没』思潮社 2013 (第十回日本

257

詩想なら、もっとうねりや展開を大きく繰り広げることが

くし、流れを小さくしているのが惜しまれた。これだけの

迫力に満ちていたが、

名詞止めの多用が少し表現を硬

大規模な投擲になるはずである。進化は感じた。

固く留ま

哀しみが、吃音のように表現されている。同義反復を減ら するとよい。「孕んだ腹裂いたらあ鉈」の言葉遊びには少 読をしたら発語の緊迫感が伝わってくるだろう。五連から していくとさらに緊張感が出てよい詩になるだろう。 のリフレインは、同じフレーズの繰り返しでなく少し転調 無理がある。「冥土のスープ」にも言葉にできない恨み、

詠んだものだ。「せんちめらたるじい」は「夜の田んぼ」 高し星生る」という句がある。星にも届くほどの生命力を いる。 忘れ去られた/小さな種が芽を出した/~」と、古びてい 題は読者に伝わるようなものが望ましい。 の人のいない薄暗い不気味な風景が良く表現されている。 くものの中での新しい生命への注視が鮮やかに表現されて わたなべ氏は、「廃団地」の一連目を「誰かに蒔かれて 中村草田男(一九〇一年—一九八三年)に「筍の鋒

視点だ。青空も一つの世界だった。「何気ない誰かの一歩」 終連にもこのような連を作って呼応させるとよい。「川柳 葉の可変性は人を殺せますか」、このような見方は、 泥棒」以下の四連目が良い。「道端に捨てられた水たまり モアもある。 何気ない誰かの一歩で/踏みつぶせる青空があった/言 赤橋梗生氏「ナイトクリーニング」は、軽快な比喩にユー やってくるまでは。それは歴史の偶然のようなものか 四連のリフレイン形式が孤立しているので最 「言葉」はイデオロギーを作り、 それは人を 詩の

**蠶」では、流竄された身を荘重に詠っている。表現したい** 詩や、古典的言語で探っているのだろう。「流竄された病 たら多くの詩ができるのではないだろうか。 ないように、例えば病蠶と革命などテーマを絞って凝視し テーマがあるようなので豊富で美しい言葉が観念的になら 曲田尚生氏、暗く先鋭化したテーマの表現形式を、

とには、 確になるのではないだろうか。 自然、風景との関係も表現することで「自分」がさらに明 は、人が抱える孤独、「輝き」さえ傷つくことである痛みを、 「鉄粉」という異物が入り込んだことでの苦悩と捉えるこ 渡辺八畳氏、「鱗」「幼い日に鉄粉を吸ってしまったから」 象徴的意味がある。鉄粉を持たない人々との比較

意味にとらえられがちなので注意が必要だ。 「よりよい暮らし」というような表現は日常的、 徳丸魁人氏、「それからの誕生」は、光から生まれた鳥 「羊膜の国」の世界での一面を書くこともできるだろう。 最終連の「朝の光を、半身でしんじ」る「胎児たち」

## 力作が犇めき合う

### 五十嵐

\* いばら... : こ れているはずで、ここを新たな基点として、さらに踏み出 戻ってきた詩想は、なんらかの深まりや根が新たに付与さ 中の聖性を再現している。試行錯誤の果てにこうしてまた 着くのか、長所を十全に生かして、「鑑真」という歴史の 印象があり、やはり歴史や仏教に根ざしたこの領域が落ち らずに、柔軟に、ダイナミズムを生かすよう工夫してほしい。 清水一美氏は、自分のフィールドにカムバックしてきた

励賞の領域は豊漁で、力作が犇き合っていた。ただ、突出

第二○回現代詩賞は全体に熱気が感じられ、

優秀賞、

して気迫に満ち、その結晶度において断然輝いている作品

残念ながら、最優秀賞は該当なしという結果

生物の存在そのものと対峙させるところまで危惧を延ばし 層を覗いて、その危機意識の上に詩の世界を構築していく ている。「『進化』という名の一艘の航行」「論理回路のオ 立場である。今回はその世界をさらに敷衍し深化させて、 ンとオフ」など、 柏原宥氏はもともとコンビュー コンピューター世界の根幹の危うさを、 ターの無機質な世界の深

紀氏、インバ氏、柏原宥氏、清水一美氏、橘いずみ氏には前進感が感じられ、層を厚く、かつ熱くしていた。岩尾宏

特に常連の詩人たちが、意欲を持って作品を投げてくる

パワーが溢れていた。

く充実していて、粒揃いの重みを持った。

代わりに優秀賞、

奨励賞の層はこれまでにな

積極的な表出

0

はなかった。

いつも以上の重みが感じられ、あともう半歩というところ





五十嵐 勉

つとむ いがらし 山梨県生まれ 1949

指して駆け昇らせている。それはこちらにも伝わってきた

ている表現技巧を最大限に発揮して自身の詩世界を頂点目

この層の波を高くしていた。優秀賞の数はおそらくこれま カソ氏の新人グループで、これも挑戦意欲が漲っていて、 たのは、三刀月ユキ氏、森下万尋氏、光枝初郎氏、幸地チ まで最優秀賞に肉薄していた。また別に熱気を高くしてい

でに比べて多いのは、当然の結果である。

優秀賞の岩尾宏紀氏は「歪

Under OQX」など、持っ

79「流謫の島」で群像新人長 編小説賞受賞 98「緑の手紙」で読売新聞

NTT プリンテック主催第1回 インターネット文芸新人賞最優 秀賞受賞 2002「鉄の光」で健友館文学賞

受賞 他に中篇小説集「ノンチャン、 NONGCHAN /聖正寺院へ」 長篇「破壊者たち」戯曲「核の 信託」など

て盛り上げていく技術が加われば、もう一ランク上へ行く を発見して感じさせる。他のだれもこういった角度か いの強さは真摯で胸を打つものがある。ただ、やや型には いの強さは真摯で胸を打つものがある。ただ、やや型には いの強さは真摯で胸を打つものがある。ただ、やや型には がの表現を少なくし、もっと流れを作り、その戦慄に沿っ で盛り上げていく技術が加われば、もう一ランク上へ行く

に詩のテーマが象徴されていないことを感じる。タイトルに詩のテーマが象徴されていないことを感じる。タイトルで、人にわかるようにはっきり構築する意識も持ってほしい。連を作って構成するとか、盛り上がりを後半部作るとか、その上でもう一度テーマを明確にして築き上げることができれば、より深い感動を呼ぶだろう。深化は称賛するができれば、より深い感動を呼ぶだろう。深化は称賛するが、それが万人の胸に届き、感動として伝わるようにするには、もう一つ構築力がほしい気がした。あと、タイトルに詩のテーマが象徴されていないことを感じる。タイトルに詩のテーマが象徴されていないことを感じる。タイトルに詩のテーマが象徴されていないことを感じる。タイトルに詩のテーマが象徴されていないことを感じる。タイトルに詩のテーマが象徴されていないことを感じる。タイトルに詩のテーマが象徴されていないことを感じる。タイトルが、それが万人の胸に届き、感動として伝わるようにするが、それが万人の胸に届き、感動として伝わるようにするが、それが万人の胸に届き、感動として伝わるように対しているいとを感じる。タイトルを楽しいである。

してほしい。の言葉自身も、詩のテーマと共鳴して響き合うように工夫

方向に留意すれば、一段と飛躍するだろう。 化と擬態語などの安直な言葉の遣い方をとりあえず失くす 削り、抑えた言葉で表現しきれば、最優秀賞に届いたかも われていたりするのはいただけなかった。そういう部分を 界に引き寄せ、再現させる力は、並々ならぬものがある。 こういう形でこの世に残る魂もありそうだ。それを詩の世 さを熾火に例えて燃焼させる着想は、優れている。 さは、特筆すべき鋭さを有している。 しれない。評価と欠点とが同居する作品だった。 ただ、不用意な繰り返しがあったり、 ニューフェイスでは三刀月ユキ氏の詩に強い刻印を感じ 母親の回顧に生の慙愧を想起して振動させる思いの強 擬態語がたくさん使 魂の中の後悔や無念 パターン 現実に

進するための何かを身に着けてほしい。

北枝初郎氏の詩は、リズムに乗った流れは快く、言葉光枝初郎氏の詩は、リズムに乗った流れは快く、言葉光枝初郎氏の詩は、リズムに乗った流れは快く、言葉光枝初郎氏の詩は、リズムに乗った流れは快く、言葉

幸地チカソ氏は沖縄という地に立脚点を得て問いかけが。幸地チカソ氏は沖縄という地に立脚点を得て問いかけがいる。これは詩作の経験の差にもよるのだろうが、生きている。これは詩作の経験の差にもよるのだろうが、生きている。これは詩作の経験の差にもよるのだろうが、生きないとわからない咀嚼を要求してくる詩であるにもかかまないとわからない咀嚼を要求してくる詩であるにもかかまないとわからない咀嚼を要求してくる詩である。「赤黒さ生臭さと/抱き合うとき//わたしはたしかにここにいて/わたしはわたしをかたっていい/かたっていいと/しさ生臭さと/抱き合うとき//わたしはたしをかたっていい/かたっていいと/しきする可能性を孕んでいる。もっと沖縄の風土と一体化し達する可能性を孕んでいる。もっと沖縄の風土と一体化し達する可能性を孕んでいる。もっと沖縄の風土と一体化したとき、それが可能になる気がする。

ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。た猟犬」とか、刺激的な言葉のちりばめが煌びやかに流えた猟犬」とか、刺激的な言葉のちりばめが煌びやかに流えた猟犬」とか、刺激的な言葉のちりばめが煌びやかに流えた猟犬」とか、刺激的な言葉のちりばめが煌びやかに流えた猟犬」とか、刺激的な言葉のちりばめが煌びやかに流えた猟犬」とか、刺激的な言葉のちばめが煌びやかに流れを進めている。またタイトルももう一つ結晶感がない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。ない。「まだらな青い時」などイメージが明確に結ばない。

ることができるか。課題でもあり、希望でもある。この技巧と表現をどうしたら、天空への飛翔感に上昇させ

獎励賞では特に徳丸魁人氏、中村郁恵氏、後藤順氏、久 愛秀賞でもおかしくなかった鋭気があり、私は注目した。 優秀賞でもおかしくなかった鋭気があり、私は注目した。 徳丸氏の詩は「世界公園」「それからの誕生」など力作だ ったし、中村郁恵氏の詩にはこれまでの台所などから世界 の裏が見える視点が、大きく展開されて外界へ出ていく積 極的な広がりが感じられた。久利潤保氏も「再会」「攪拌 する」 には先回よりも一歩前進した拡充感が感じられた。 うちに鬼気迫る詩世界を成立させていた。bluemoon 氏は ペンネームだけではなく詩のタイトルも英文字横書きで、 違和感もあったが、「私は世界でできている」など斬新な 感覚に訴えるものが感じられた。

世界をぶった切るような詩を期待している。契機に、より深く、より高い作品作りをめざしてほしい。られなかったのはきわめて残念ではある。こうしたことをさを備えた上に純度の高い結晶感を果たしている作品が見金体として、豊饒感のあった今回の現代詩賞だが、雄勁

「詠う痣のままごと風景」 「二十二億分の一の詩」「正しい地獄の作り方」 「眠る指先に」「 千葉紫月 肺に落ち

佳作

「涙と水爆」「珈琲に浮かぶ虫」 ペトリコール」 「竹林」「右手」 北川命」 佐山由紀

「ハッピーバースデー」「売家になる」 ふきのとう 「ドライブ」

「行路死亡人」

志田

陽

「十月宵」

「新世界」

南斗るい

年輪」「絶望」

「ノュレーディンガーの猫」「冬と旅人」「実存の彼方へ」 佐々木漣 黒田裕美子

「異次元獣」

`humour\_ 柳柳太郎 キネブチタツ

**「くじらの歌」「夏鳥」** 「空色」

記憶 身体 液体 片岡周子 中沢人鳥

成せる技」「プロレタリアー 月夜」「発熱」 「硝子の花」 の絶滅」「予 行練習」「三百年の 宮原透夏

「SHIBUYA,rainy-day:」「taberu.」「ハートとやら」 河口國江

「コトリ」 「一つの希望」 「燃える夕暮れ」

「春は病」「浄化」「カラクリ」「凹」 「無音軌道」 薬師丸怜央 てづかかなこ

トは何色?」「西新宿のブルージ ベ ビル」「アスファルト・パ レ

ッ

「それは」 うみのひつじ

「手持ちの楽器が無い のなら」 後藤敏斤「馬の国から」

ていない空き家にて透き通るほどに」「 「わたしは死」 有原野分」「窓ガラス の割

n

「君を惜しむ」「マッチング」 **恐れるへその緒** 「とある未来」 実川阿仁「舟をこぐ」 藍原知音

「恋悲」 「業火」 琴森 戀

「追憶と忘却の間で」「花瓶 0 口に紅」

「バードストライク」 風呂場」 「ふてくされた箱」 若林麻衣 色透ふう 藍羽由宇

**゙**チャンコチャンコ」 女神に首を絞められたい」 夏色」「職人」 「白い月」 下~ 「ポプラ」春町桃花 「風葬」齊藤航希

「セイ」「通っていた雄魅せは今」「単なる馬鹿」 **開かれた眼」「零れ落ちていったすべて」宮澤なずな** 

入選

「心の視力」「大根にしみこんだ幸せ」「痛みは今も 61 」「折り合い 」「今ひとひら」 有澤かおり

もり・さとこ

「十二月のアベリア」「うしろ姿の」「冬の花みずき」 [SAVANNA] 中牟田桃園 南雲和代

「生きるということ」「空を見上げて」 美波

「巡り生きゆくモノよ」「書かれない敬具」 cofumi 大石さち子

「薄紅色の風に吹かれて」「失い彷徨う者達へ」

南原魚人中のアルビノの花」

「サヨナラ AI」「道の説明」「冷蔵庫の

「せいかつほごしんせいちゅう」「辛党のあなたへ」「マチ」 「青春の光と影」「調和する旋律」 阿部静雄

「篝」「燈」「焚」

ヤス

贅沢な歩き遍路」 「風のともだち」

村上文緒」「カーボン」 井口牧子

「被害者罪人」「遅い学び」「牧歌的な店内」「宇宙からの電話」 ヲゟネ゠

「魔法が解けて」「白いグラジオラス」「時に愛は」

「神託」「参列」「20240101」 「下り坂」「死別と歌」「許容 片桐こげち

「存在」「ある母の最期の二行」 夏」「靴」「塔」 星原理沙」「最期の一行」 丘 鹿田 島

**|夜に沈む」「私のソレは私の悲しいが大好きだから」** 

**「ヴァイオリン」「すいそう」** 「降ってくる悲しいこと」 こやけまめ 銀森そのみ

「すかんぽ」「ほしをななつほど」「よきこと」

「心の鍵」「暮れの夕暮れ」「過去の恋人達に告ぐ」 「境界線」「香り」「五月病」 ドロシー

Sec.